

## 小児看護専門看護師：支援したAちゃんのケース

学童期 重症心身障害児  
社会資源として短期入所、放課後等デイサービスを利用

短期入所に来るたびに褥瘡が悪化していることや、訪問サービス未契約による**家族の介護負担の増大**について、短期入所チームが気づき、“気になるケース”として小児看護専門看護師へ病棟ラウンドの時にコンサルテーション(相談)を受けました

利用している放課後等デイサービスやSWに話を聞くと、そこでも褥瘡のことや日ごろのケアが家族だけでは難しいのではないかとスタッフが心配していましたが、日ごろの関わりだけでは情報が不足してどうしたら良いのか困っていました

CNSの病棟ラウンドで相談

短期NS

気になってて…

CNS

関わっている人たちはみんな心配していた。まずは情報を共有するために関係者会議を開こう！

関係者会議で、褥瘡治療のための入院が必要なこと、家族が抱えていた介護負担を軽減するためにサービス調整が必要なこと、を共有しケアとサービス調整を行いました

整形外科医師、急性期病院の医師と連携し、褥瘡の治療



医師



短期NS、WOC  
デイサービスNS

医師、WOCと連携して褥瘡ケア  
家族と在宅生活に必要なサービスやケアの話し合い

短期入所の日程調整  
福祉用具や車椅子の調整  
家屋訪問  
訪問看護契約への調整



短期SW  
計画相談SW



理学療法士

車椅子、ベッドの体圧測定  
車椅子の修理  
マットレスの選定  
治療中の理学療法

関わっている看護師の気づきからCNSへつながり、褥瘡の治療と在宅サービスの充実につながりました！！

## 摂食・嚥下障害認定看護師：活動紹介 「摂食教室(まんまルーム)」第3木曜

現在、感染対策で個別対応中

摂食教室は、「患者家族が自分を題材にして摂食嚥下の機能を体感し、自分の家族の摂食嚥下障害について考えることができる」ことを目的として、小児神経科を受診された摂食嚥下障害のある利用者様とその家族を対象に主治医の指示で行っています。

そうだ、個別指導の前に集団で基礎を指導しよう！ 教室を開こう！

外来で個別に摂食訓練・指導に関わっている部署(スタッフ)

OT・ST・摂食CN  
歯科医師・歯科衛生士

家族：「予約が取れなくて困る」  
スタッフ：「個別指導の1回目は基礎の説明で終わってしまう」「もっと有意義に個別粗動の時間を使いたい」

個別指導



入口の掲示版

予約待ち期間の減少  
初回の個別指導の充実



家族同志の繋がり

家族：「個別指導まで長くて不安だったけど…良かったです」  
スタッフ：「個別に来る前に家族が脱感作をしていてくれた！」「など、スタッフからうれしい言葉が聞かれました！  
そして何よりご家族にとって不安の解消(サービスの向上)にもなりました！

・最大で4組の親子  
・講義は2本立て  
「メカニズム」「食べるためのお口作り」



教室の様子

・講義の後、個別に現状を把握していきます。(初期評価)  
・個別の訓練までに行えることがあれば…指導や説明を行います。

専門看護師(CNS)  
認定看護師(CN)  
特定看護師(便り)



担当者



尾上 小児看護専門看護師



津島 摂食・嚥下障害看護認定看護師

私たちは今年度9名で活動しています。おたよりで活動の報告や、新しい知識の情報の発信をしていきます！

発行元：千葉リハビリテーションセンター看護局

CNS・CN・特定看護師会議